



平成25年11月22日

海上保安庁

西之島付近の新島に2つの火口を確認

11月22日午後3時30分から午後4時30分の間、羽田航空基地所属航空機(MA722 みずなぎ)により、当庁職員及び東京工業大学火山流体研究センター野上健治教授が観測を実施したところ、西之島付近の新島において2つの火口を確認できた。

これらの火口では約2,3分に1回の頻度で噴火しており、褐色の噴煙が、高さ約750メートルに達している。

野上教授から「昨日とは異なる段階に入ったと見られる。火道(マグマの通り道)が形成されており、マグマが安定的に供給されているようだ。昨日までの火口以外にも火口が形成されており、マグマ供給レートは変化がないか、増加している可能性がある。」とのコメントが得られた。

なお、昨日11月21日に撮影することができた垂直写真¹を詳細に解析した結果、新島の位置は、昭和48年の西之島新島を作った噴火が始まった際の位置と一致することが分かった。また、新島の大きさは、昨日の時点で長さ約200メートル、幅約100メートルであったことが判明した。

付近航行船舶へは、引き続き航行警報により注意を呼びかけている。

¹島の直上から撮影した写真で、島の位置や大きさを計測するために必要。



新島の噴火の様子(11/22 撮影)